

豊橋市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

豊橋市議会3月定例会は2月28日開会し、2017年度当初予算案などを上程。佐原光一市長は「佐原市長のカラーが花開くことができれば、これを決めるのはこれから始める、(ま)い」のスタートの年にしたい」と抱負を述べ、事業の選択と集中により市民満足度を一層高める市政運営に取り組む考えを表明した。

自民党豊橋市議団を代表して登壇した藤原孝夫氏は「佐原市長のカラーが花開くことができれば、これを決めるのはこれから始める、(ま)い」のスタートの年にしたい」と抱負を述べ、事業の選択と集中により市民満足度を一層高める市政運営に取り組む考えを表明した。

また、産業としての農業の確立を図るべく、産業者の確保や、付加価値向上や農業王国の人材を確保し、近代農業技術のアジアのモデルにしたい」と意欲を示した。

公明党豊橋市議団を代表し質問した沢田都史氏は地方創生の取り組みとして、働く意欲ある女性を支援して「いちばん女性が輝くまち」について議論した。

選ばれるまちを目指して多彩な議論

開。「医療から介護へ、施設から在宅へ」という流れの中で、高齢者が在宅で生活をしていくうえで必要な仕組みにどう取り組むのか」と聞いた。

財政健全化PT
立ち上げ